

## 新年のご挨拶

- 実践の年の始まりにあたって -

会 長 増田 優

新年明けましておめでとうございます。

2006 年は、GHS 分類・表示制度が始動しはじめるなど、化学物質総合管理にとっても節目の年になると思われます。本年もまた、皆様とともに楽しく進んでまいりたいと思います。よろしくご支援のほどお願いを申し上げます。

化学物質総合管理の重要性は化学分野に限らず広い分野でここ数年急速に浸透してまいりました。そして実践の時をむかえ、取引者相互あるいは社会とのコミュニケーションツールとして有害性評価、暴露評価、リスク評価そしてリスク管理に関する文書が重要な役割を担っていることも明白になってきております。一方、経営にとって化学物質総合管理は今やコストではなくて価値に転化する道であることも浸透してきております。

こうした状況の中、昨年は化学生物総合管理学会にとって2年目の年でしたが、予想外の大展開ができた年と総括しても良いのではないのでしょうか。発足1年そこそこの学会が学会誌を年間3号も発刊できました。33件の投稿があり総計455ページと大部であるばかりでなく、内容もいわゆる学術論文や研究論文の他、多大な労力と知的活動の集大成であるリスク評価書やリスク管理書、内外の情報や動向に関するレビューなどと多彩でした。企画特集として毒性病理学特集なども刊行することができました。こうして、会員であるか否かを問わず多数の方々に発表の場として活用していただけたことは望外の喜びであります。秋に開催した学術総会でも多様な分野から発表があり、230名の多くの方々にご参加いただき盛会となりました。これらは皆様のご協力のお陰と厚く御礼申し上げる次第です。引き続いて3年目の2006年ですが、心を新たにして、地道に足固めをする年にしたいと考えております。化学生物総合管理学会では固定的に物事にとらわれることなく、世の中の諸々の事柄を幅広く取り上げてゆきたいと考えております。例えば、ナノ材料や食の安全なども今後論じてゆくべき領域かもしれません。また、安全・安心を脅かした事例、つまり失敗の事例の中から学ぶこともあるのではないかと考えます。自由に翼を広げながら、地道に活動を展開していきたいと思っております。

学会誌は引き続き編集委員の方々や査読にあたって下さるの方々のご協力を得て特徴的で内容豊富なものにしていきたいと願っております。多様な分野の皆様からの投稿をお待ちいたしております。また、発表と論議の機会も増やしたいと思っております。昨年の経験を生かして学術総会にもさらに夢が膨らみます。共同開催も大歓迎です。少人数のシンポジウム形式の論議と意見交換の場を設定して、会員の皆様に活用していただくのも一案かと思っております。そして、それらを支えるのは会員の発意による研究会ではないかと思っております。現在、法制研究会(化学生物総合管理法制研究会)、評価研究会(化学物質総合評価研究会)やナノ研究会(ナノ材料のリスク評価研究会)がありますが、皆様の発意で新たに研究会を発

足することが可能です。各研究会が皆様の参画によって調査研究を行い、提言をまとめて社会に広く発信していくことを期待いたしております。

今年を地道に足場を固める一年として位置づけ、一人ひとりが活動し発言していく場として、皆様と共にこの化学生物総合管理学会を育てていきたいと思っております。自分の経験や考えをまとめ発信していく一つのステップとして気楽に活用していただけるような身近な学会であり続けたいと思います。皆様のご参画とお力添えを楽しみにお待ちしております。

新たな年の始まりにあたりまして、皆様のご多幸とご発展を祈念申し上げます。

2006年1月